



## インター・アングリカン一致・信仰・職制常任委員会 (IASCUFO)

### 2023年ガーナ・アクラ ACC-18 への報告

IASCUFO 議長から ACC への手紙

アングリカン諮問評議会のメンバーのみなさま

主イエス・キリストの名においてご挨拶申し上げます。2023年2月にガーナで開催されるACCの会合で皆さんとご一緒できることを私は楽しみにしています。この手紙には、私が2年近く議長を務めているインター・アングリカン一致・信仰・職制常任委員会（IASCUFO）の活動報告を同封しています。

IASCUFOはアングリカン・コミュニオンの常設委員会であり、ACCに直属しています。その概要は、教義、教会学、典礼、教会法およびエキュメニカル関係の問題についてコミュニオンのインストルメンツと加盟教会会に助言することです。

報告には、委員会が過去数年間に行った活動の報告を記載しており、アングリカン・コミュニオンと世界中の他のエキュメニカル・パートナーとの間の様々なエキュメニカルの対話に関する報告を含みます。また、近年私たちが行ってきた各プロジェクトや、現在アングリカン・コミュニオンとして直面しているいくつかの問題に対処できるよう、私たちが将来行うことを提案している活動のいくつかについても説明しています。

同封の報告書「アングリカン・コミュニオン：一致・信仰・職制、2008～2022」にご注目いただきたく思います。この報告は、2008年の発足以来の IASCUFO のすべての活動をわかりやすくまとめたものです。

私は、アングリカン・コミュニオン事務局のスタッフの皆様、とりわけニール・ヴィガース、スティーブン・スペンサー、ウィル・アダム（一致・信仰・職制の前ディレクター）、クリストファー・ウェルズ（同役職の新任者）に、近年の委員会の活動をご支援いただいたことに対し深く感謝いたします。

ガーナでお会いできた際には、これらの報告についてよい話し合いができ、これらのテーマについて交流を深められることを祈っております。

キリストの愛のもとで願いを込めて

主教グレアム・トムリン

*Lambeth Palace* カルチュラル・ウィットネス・センター・ディレクター

IASCUFO 議長

## 1. はじめに

アングリカン・コミュニオンの長年にわたるキリスト教会の一致への取り組みと、世界のアングリカン・キリスト教徒の家族としての私たちのお互いの忠誠は、同じ源泉から流れている。すなわち、主イエス・キリストの祈りである、主の弟子たちを一つにし、そうすれば世は信じるようなる（ヨハネによる福音書 17.21）である。アングリカン・コミュニオンのキリスト教一致への使命は、2009 年に ACC-14 で採択された「エキュメニズムにおけるアングリカンの取り組みの 4 つの原則」に表されている。

1. 目標：教会の完全な有機的一致
2. 作業：教会を互いに認め、受け入れること
3. プロセス：段階的な一致
4. 内容：共通の信仰、 sacrament および聖務

アングリカン・コミュニオンの一致・信仰・職制の活動は、少なくとも 1867 年から私たちコミュニオンが集中的に取り組んでいる「インター・アングリカン」と、より広いエキュメニカル活動の両方を包含するものであり、16 世紀宗教改革以前のはるかに早い時期にルーツを持っている。

アングリカン・キリスト教徒は、現実の意見の相違や分裂の中で互いに交わりの賜物と使命について考えていることから、私たちは何十年にもわたって蓄積してきたエキュメニカルな富の宝庫に強さと励みを見いだすことができる。私たちの長年にわたる一致への献身と、真実を語ることへの努力は、神の恵みによって、私たちがキリストのもとで何者なのか、そして私たちが何者になることができるのかを私たちに思い出させる。

## 2. 新型コロナウイルスとそのアングリカン・コミュニオンの委員会への影響

ACC-17 の直後、世界は新型コロナウイルスの世界的大流行の影響を受け、すべての教会はその生活と聖務を行い、維持するための新たな方法を見つけなければならなくなった。コミュニオンの神学的対話と常任委員会は、対面で会うことができず、

2、3回の年次集会を逃した。オンラインでのミーティングは私たちが連絡を取り合うのに役立ったが、多くの活動が大幅に延期された。2022年5月から再開され、新たな二者対話がいくつか実施された。

### 3. ACC-17からACC-18までの世界のキリスト教

2021年のロシアのウクライナ侵攻は、地域で高まっていた地政学的緊張の爆発を示すものであった。正統派キリスト教は、一般のロシア人とウクライナ人、それぞれの指導者らがいる状況の中で、これらの場所と人々の網に絡まることになった。すでに2018年には、モスクワの総主教は、ウクライナ独立正教会の独立を認めるかどうかについて、コンスタンティノーブル総主教と袂を分かった。アングリカン・コミュニオンは長い間正教会を最も深く尊敬し、彼らの一致を、またすべてのキリスト教徒の一致とともに願ってきた。

一方、ローマ・カトリック教会は、カトリックだけでなくすべての教会のためのSynodality（シノダリティ）への使命という、フランシスコ教皇の教皇としての特徴として最も注目すべき一連の改革に継続して取り組んでいる。アングリカン・ローマカトリック・インターナショナル委員会の画期的な活動、特に1999年のテキスト「Gift of Authority（権限の賜物）」により様々に期待されている中すべてのキリスト教徒と教会が「共に歩く」よう呼びかけられており、これは、地元レベルおよび地域・国際レベルの両方での協議と合意を意味するものでもある。アングリカン・キリスト教徒はこの活動でカトリックの友人と密接に連携しており、私たちは彼らと一緒に歩き、互いに歩み寄ろうとしつつも、彼らから学んでいる。

世界教会協議会（WCC）は2022年、ドイツのカールスルーエで「キリストの愛が世界を和解と一致に動かす」というテーマで第11回会議を開催した。他のキリスト教徒の素晴らしく刺激的な集まりの中、多くのアングリカン・チャーチが参加した。WCCが多国間のキリスト教協力という尊い活動を進める中、アングリカンのキリスト教会は歴史的なリーダーシップと取り組みにより特別な位置を保っており、グローバルな宗教団体として共に歩むことを学んだ経験を活かして、より多くの貢献をすることができるであろう。



#### 4. ACC-16 から ACC-17 までのアングリカン・コミュニオンのエキュメニカル対話

アングリカン・コミュニオンの、他のキリスト教宗派との二者間対話は、キリストが祈った一致を実現するための新たな方法を模索し続けており、私たちは実現可能な宗派への道と方法について検討している。私たちの対話のいくつかは、歴史的な神学的問題や最近の倫理的問題に焦点を当てたものであり、それらは、教会を互いに分けるだけでなく、それ自身から新たな宗派を生んでいる。別の対話では、歴史的なエキュメニカル運動の「人生と仕事」の綱を利用して、共通の使命を通じ一致を前進させることを目指している。

##### a. 神学対話

###### アングリカン-ローマカトリック・インターナショナル委員会 (ARCIC III)

ARCIC の第 3 フェーズは 2009 年に始まり、ARCIC II の活動の受容を促し、コミュニオン、地域的および普遍的なものとしての教会について考え、宗派内で地域的・普遍的教会が正しい倫理的教えを見極めるようになる方法をともに考えることを使命としている。ARCIC II の活動は 2016 年秋に完了し、教皇とカンタベリー大主教に報告された。ARCIC III は 2017 年に最初の合意声明「[Walking Together on the Way: Learning to be the Church—Local, Regional and Universal \(共に道を歩く：地元の、地域のそして普遍的な教会になるために学ぶ\)](#)」を発表した。

ARCIC III の議題は現在、倫理的な問題と、アングリカン・キリスト教徒とローマ・カトリック教徒が倫理的教えをいかにして認めるかを考えることに移っている。2024 年の会議後に合意声明が発表されることが期待されている。

ARCIC は ACC-18 に向けての決議を持っていない。

###### アングリカン-オリエンタル・オーソドックス・インターナショナル委員会 (AOOIC)

2017 年以來、AOOIC は教会の權威の性質を研究しており、2023 年に委員会は公会議の繼承に関する合意声明を發表した。

- ACC-18 は、この文章を歓迎することを求められるとともに、アングリカン・コミュニオンの教会に対しその研究と対応を託すよう求められることになる。

次に検討すべき分野は、使徒繼承についての我々の理解と、ある伝統から別の伝統へと移行したときの聖職者の受容についてのものとなる。

### インターナショナル・アングリカン-リフォームド・ダイアローグ (IRAD)

この対話は、2020 年の合意声明「[Koinonia: God's Gift and Calling \(コイノニア：神の賜物と教え\)](#)」を發表して活動を終えた。

- ACC-18 は、この文章を歓迎することを求められるとともに、アングリカン・コミュニオンの教会に対しその研究と対応を託すよう求められることになる。

### アングリカン-オーソドックス神学対話国際委員会 (ICAOTD)

2015 年の合意声明「*In the Image and Likeness of God: A Hope Filled Anthropology* (神のイメージと姿：希望に満ちた人類学)」は、私たちが人間について何を信じるかについての倫理的意味合いを考える一連の声明の基礎となった。2020 年、委員会はエコロジーに関する重要な調査を發表した：[Stewards of Creation: A Hope-Filled Ecology - The Canterbury Statement](#) (創造物のスチュワード：カンタベリー声明) . [Cuidadores/as de la Creación: Una ecología de esperaranzar.](#) [Cuidadores/as da Criação: Uma Ecologia de Esperançar.](#) [Gardiens de la Création :Une Écologie Pleine d'Espérance](#)

2023 年、委員会は合意声明「*Dying Well, Living Well: Our Sure and Certain Hope* (よく死に、よく生きる：私たちが信じる確かな希望)」を發表した。

- ACC-18 は、この文章を歓迎することを求められるとともに、アングリカン・コミュニオンの教会に対しその研究と対応を託すよう求められることになる。



## b. 一致・布教対話

### インターナショナル・アングリカン-ローマカトリック・ユニティ・ミッション委員会 ([IARCCUM](#))

IARCCUM は、アングリカンと世界中のローマ・カトリック教会の司教による主教・司教委員会であり、ARCIC の活動の受け入れを促進するとともに、アングリカン・コミュニオンとローマ・カトリック教会の間の共同布教活動を促進している。2016 年 10 月、IARCCUM の主教・司教がカンタベリーとローマで会合を開き、教皇とカンタベリー大主教から教会全体での共通の使命と一致の活動について委任を受けた。2023 年 1 月には 2 回目の同様のサミットが予定されており、2 組の地域主教・司教がローマに集まり、友好と使命の宗教巡礼のためにカンタベリーに移動する予定である。

### アングリカン-ルーテル・インターナショナル調整委員会 (ALICC)

ALICC は、世界中のアングリカン・キリスト教徒とルーテル派キリスト教徒の関係を監モニター・調整・促進するために設立され、ACC-16 の後にその任務を終了した。ALICC の勧告に基づき、アングリカン・コミュニオンとルーテル世界連盟は、変更を受けた組織であるアングリカン-ルーテル・インターナショナル・ユニティ・ミッション委員会 (ALICUM) に合意した。この新しい組織は、アングリカンとルーテル派主教の分散した世界委員会であり、互いに協力して布教を行い、一致の絆を深めることを目指すものである。第 1 回会合は 2023 年 3 月に予定されている。

### アングリカン-古カトリック・インターナショナル調整評議会 (AOCICC)

アングリカンと古カトリックは完全な宗教団体としての関係を享受していることから、AOCICC は私たちが共有することの性質と意味を探り、ヨーロッパにおける 2 つの教会ファミリーの間の布教を調整している。

評議会の新メンバーが任命され、2022年にアメルスフォールトで会合が開かれた。

## 5. インター・アングリカン一致・信仰・職制常任委員会

インター・アングリカン一致・信仰・職制常任委員会（IASCUFO）は、インター・アングリカンとエキュメニカルな対話の富を集め、互いに対話するユニークなフォーラムである。

この委員会は、以前のインター・アングリカン神学・教義委員会（IATDC）、インター・アングリカン・エキュメニカル・リレーションズ委員会（IASCER）、およびウィンザー・コンティニューエーション・グループにより行われていた活動をまとめたものである。アングリカン・コミュニオンの常任委員会は2008年11月、IASCUFOを発足させ、次の任務を与えた。

- アングリカン・コミュニオンの教会間、およびそれらの教会と他の教会間およびキリスト教のエクメーネの伝統の交わりの深化を促進すること
- エキュメニカルな取り組みに関するすべての問題、国・地域・国際的なエキュメニカルな合意または協力と一致のスキームに関する提案、そしてアングリカンの信仰と職制に触れる疑問について、管区およびコミュニオンのインストルメンツに助言すること
- アングリカン・コミュニオンの諸問題とエキュメニカルな取り組みの両方において共通の理解、一貫性および集中性を促進することを目的として、アングリカン・コミュニオンおよびエキュメニカル・パートナーの間における信仰、職制または一致の分野における進展をレビューし、アングリカン・コミュニオンの教会またはコミュニオンのインストルメンツにそれらについての助言を与えること
- 求めに応じて、一致・信仰・職制の分野における新たな提案の評価について管区を支援すること

IASCUFO は、アングリカン・コミュニオンの生活について考えるために毎年会合を持っている。これはコミュニオンのインストルメンツに助言し、管区の教会にエキュメニカル関係について助言している。

IASCUFO は、「信仰と職制論」シリーズの中で「[God So Loved the World \(神は世界をととても愛した\)](#)」というタイトルのナンバー3と4を発行した。論文3の「神のかたちと姿に造られて：神からの贈り物と人間への教え」では、キリスト教の生活の現実的な問題を考えるための基礎となり得る神学的人類学を展開している。論文4の「神の統治と私たちの救い」では、有形無形を問わず、アングリカンが教会について考えることへの一助として、神の恵み、救われ得る人、そして選びの謎について再考している。

- ACC-18 は、出版物をコミュニオンの教会に推奨する決議を検討するよう求められることになる。

IASCUFO は、2008年の Lambeth Conference 以来、アングリカン・コミュニオンの生活に関連するすべての重要な信仰と職制の資料を集めた要約を書いている。[Anglican Communion: Unity, Faith & Order, 2008 to 2022 \(アングリカン・コミュニオン：一致・信仰・職制、2008-2022\)](#) は、印刷された本ではなく、ハイパーリンク付きの電子テキストである。今日までの包括的な解説であり、簡単に更新することができる。

- ACC-18 は、出版物をコミュニオンの教会に推奨する決議を検討するよう求められることになる。

最後に、IASCUFO は、アングリカン・コミュニオンの直接業務として信仰と職制のプロジェクトに着手した。これは暫定的に「[Good Differentiation \(良い差異化\)](#)」と題されている。アングリカン・キリスト教徒にとってコミュニオンとは何か。私たちが共有する信仰と職制について私たちはまだ何か話すことはできるか。そして、分断を深めることなく私たちの妥当な多様性を守るために、どうすれば正しい意思決定ができるだろうか。私たちが互いに一つのコミュニオンに召されているとして、それはどのように形成され、そして私たちと一致しない人々の良心を私たちはどの

ように守ることができるだろうか。私たちが一緒に歩んでいこうとするなら、良心が差異化を必要としたとき、互いにそれを尊重することができるだろうか。

- ACC-18 は、IASCFO によるアングリカン・コミュニオンにおける構造と意思決定の精査について提案された軌跡を歓迎する決議を、私たちの一つになることへの呼びかけの中心となるものとして検討するよう求められることになる。

## インターナショナル・アングリカン典礼協議会： ACC18 への報告

インターナショナル・アングリカン典礼協議会（IALC）は、アングリカン・コミュニオン（聖餐）の典礼に関する公式ネットワークである。これが存在する目的は次のとおりである。

- アングリカン教会の務めに不可欠な典礼と祈りの生活を新たにすることにより、アングリカン・コミュニオン（聖餐）の教会間の交流をさらに深めること
- 管区とコミュニオン（聖餐）のインストルメンツ（道具）に典礼と祈祷文の疑問について助言し、アングリカンの典礼神学と実践に触れる疑問について管区間の対話を奨励し支援すること
- アングリカン・コミュニオン内およびエキュメニカル関連において共通理解、一貫性および統一性を促進することを目的として、アングリカン・コミュニオンおよびエキュメニカル・パートナーの間の典礼の形成と実践の展開をレビューし、管区とコミュニオン（聖餐）のインストルメンツ（道具）にそれらに関する助言を与えること
- 典礼の形成、展開および実践の分野で新たな提案を行おうとする管区を支援すること。および
- その活動の範囲と結果をアングリカン諮問評議会に報告すること

IALC のメンバーは次のとおりである。

- 管区典礼委員会のメンバー
- 管区によって任命された人
- [Societas Liturgica](#) のアングリカンメンバー

運営委員会は、IALC のメンバーによって選出され、Revd ニール・ヴィガースの招集により定期的なオンライン会議を開催し、ネットワークの活動を監督し、将来の協議会を計画する。

- The Revd クリスティン・ベノイト (インド洋)
- The Revd Canon シンティア・ボサ (南アフリカ)
- The Ven デーン・カートニー (オーストラリア)
- The Revd Canon ケイス・ギリフィス - 議長 (2022年8月辞任) (南部アフリカ)
- The Revd Canon Dr サイモン・ジョーンズ - 議長 (2022年8月より) (イングランド)
- The Revd チュン-ワイ・ラム (香港)
- The Revd Dr ルイス・テイシエラ・コエーリョ (ブラジル)
- The Revd ニール・ヴィガース (アングリカン・コミュニオン事務局)

## ACC17以降

IALCは2021年5月4日から6日までオンラインで協議会を開催した。コミュニオン全体から63人のメンバーが登録し、パンデミック前の集まりから大幅に増加した。3日間の各日に2回の接触時間があった。個人のプレゼンテーション、グループワークおよび全体セッションを通して、次のトピックが検討された。

- 新型コロナウイルスの世界的大流行時の「アングリカンの典礼」に関する検討
- 「主教の典礼形成」(その後、2020年に香港で始まった「すべての洗礼を受けた人の典礼形成」にまとめられた)
- アングリカン・コミュニオン・カレンダー、セクレタリー・ジェネラルの要請による

協議会の終わりには、各作業を継続するために3つのグループが作られた。1つ目は、特にオンライン聖餐式で提起された典礼的・神学的問題を対象にした。2つ目のグループの成果は、昨年のLambeth Conferenceでの典礼形成に関するIALCセミナーに送られ、主教らが招かれてその内容についてコメントした。ビスマルク・

アヴォカヤ主教（南スーダン）がセミナーの司会を務め、ニール・ヴィガース（ACO）がIALCの活動の概要を説明し、サイモン・ジョーンズ（イングランド）が資料を発表し、その後の対話を主導した。香港のIALC（2020年）で起草された聖餐の祈りは、カンタベリー大聖堂のオープニング・クロージング聖餐式で使われた。

ACC-18は、IALCの成果の3つの分野に関連する3つの決議を検討するよう求められる。これら資料は現在、次の題名で知られている。

- すべての洗礼を受けた人の典礼形成
- バーチャル・コミュニオンと新型コロナウイルス世界的大流行
- アングリカン・コミュニオン・カレンダー

### 今後の予定

多くの管区の聖餐式の形の改定に多大な影響を与えた聖餐式に関するIALC声明が発表されてから約30年がたち、運営委員会はこの作業を再考するために2回の協議会を開催することを計画している。典礼学の発展、新型コロナウイルス世界的大流行、文化の変容と多様性、そして聖餐式が祝われる状況の多様化を考慮し、新たな声明によりコミュニオン全体にわたる将来の改訂と実践が提案されることになる。最初の会議は2023年5月3日と4日にオンラインで開催し、2024年2月に韓国のソウルで開催する完全な対面協議会につなげる予定である。運営委員会は、管区から可能な限り広く代表の参加が可能となるよう、IALCのバーサリーファンドに資金支援を要請することを考えている。

サイモン・ジョーンズ  
国際アングリカン典礼協議会 議長  
2023年1月

## アングリカン・コミュニオン・リーガル・アドバイザーズ・ネットワークの ACC 2023 への報告

教会の使命は、独自の規律構造を通じて実行され、多様な市民法制度によって統治される領域で行われる。あらゆる場所で、質の高い法的アドバイスが使命のあらゆる側面を促進する。

リーガル・アドバイザーズ・ネットワークは、ACC-12 での決議を受けて 2002 年に発足し、共通の教会法原則の声明を作成し、共通の法的問題を調査している。これにより 2008 年、「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」が作られた。

最近は一時的に停止になっており、2022 年の原則改定作業が、カーディフ法律・宗教センター、教会法協会、および ACO により共同で行われた。ACC 常任委員会に提出されたこの改訂プロセスの報告を下に添付する。

メンバーは、改訂された [Principles of Canon Law \(教会法の原則\)](#) をレビューすることが求められている。

### 今後

リーガル・アドバイザーズ・ネットワークの必要性はこれまで以上に高まっており、コミュニオンの各管区が、生じた法的問題について互いに助け合うのを支援している。原則の改訂に対するエネルギーと熱意は、ネットワークの刷新と私たちの一致の一面を賛美する機会を提供している。ACC-18 への我々の決議案はこの希望を反映したものであり、ACC-12 及び ACC-14 の決議に基づいたものである。

このアングリカン諮問評議会は

- カーディフ法律・宗教センター、教会法協会、および 2022 年の Lambeth Conference で発表された「原則」の 2022 年改訂版の作成に関わったすべての関係者に感謝する。
- 「2022 年アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」をすべての管区において研究することを薦める。



このアングリカン諮問評議会は

- アングリカン・リーガル・アドバイザー・ネットワークの刷新を歓迎する。
- ネットワークが「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」を研究するよう奨励する
- ネットワークに対し、共通の法的問題と、考えられる解決策を検討し、IASCUFO とアングリカン諮問評議会に報告書を提出するよう依頼する。

ここに謹んで提出いたします。

Revd ラッセル・デューハースト、カーディフ大学カーディフ法律・宗教センター・フェロー

The Ven アラン・T・ペリー、カナダ・アングリカン・チャーチ・セクレタリー・ジェネラル



ACC 常任委員会メンバー各位

「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」第2版の関係者は、改訂された「原則」の発行と最初の受け入れについて、アングリカン諮問評議会の常任委員会に最新情報を報告することが合意された。

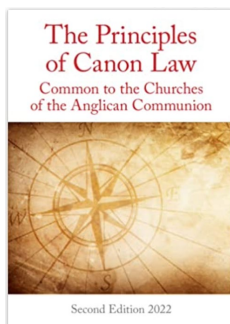
## 背景

アングリカン・コミュニオンの各教会は自立しており、それぞれ独自の法体系に従って運営されているが、教会法の共通原理があり、これは事実上教会の法律を研究することによって確立されたものである。

2002年のカンタベリーでの会合で大主教は、コミュニオンの教会に共通し、教会法の共通原則として表現されている不文法が第5の「一致のインストルメント」であると理解されることがあることを認め、原則の声明の草案の作成を承認した。この決定は法学者のノーマン・ドウ教授の研究に基づくものであった。法律アドバイザーの国際ネットワークによる広範な研究と作業の後、アングリカン・コミュニオン事務局は2008年、「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」を発行し、これは同年のLambeth Conferenceで出版された。アングリカン諮問評議会は2009年、「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」をすべての管区において研究することを薦めた（決議14.20）。

それ以来「原則」は、事例や学術的な解説で引用され、管区が自らの教憲や教会法を作る際に使われ、そしてエキュメニカルに用いられ、とりわけアングリカン-ローマカトリック・インターナショナル委員会（ARCIC）は「原則」を最近の出版物「*Walking together on the Way*（共に道を歩く）」で推賞している。

## 第2版の作成



教会が規則の策定を続ける中、「原則」を改定する必要性が高まり、その結果第2版の計画の準備が整えられた。

第2版の作成は、カーディフ大学法律政治学部カーディフ法律・宗教センター（Centre for Law and Religion）、教会法協会（Ecclesiastical Law Society）、およびアングリカン諮問評議会が監督する共同プロジェクトであった。CLRは起草と改訂の作業を監督し、ELSは初期読書グループを組織すると

ともにスポンサーを提供し、ACC は著作権を保持し、ニール・ヴィガースの調整により整理編集・植字の専門知識を提供した。

初期読書グループ、改訂委員会、そして管区との協議を通じて、コミュニオン全体で 70 人を超える教会法法律家関わった。アオテアロア・ニュージーランド・ポリネシア、オーストラリア、ブルンジ、カナダ、中央アフリカ、セイロン、イングランド、香港、ウェールズ、西アフリカ、スコットランド、南アフリカ、スーダン、アメリカ、西インド諸島を含む管区からインプットを得た。



## 第 2 版の初期受け入れ

第 2 版の方法論は、2022 年 10 月にローマで開催されたアングリカン・ローマ・カトリック教会法法律家会議で発表されたノーマン・ドウとラッセル・デューハーストの論文の主題となった。原則は、会議のアングリカンチームにより常時使われている。エキュメニズムの教会法的側面が大きくなっていることに対して原則はよく対応できており、アングリカン・キリスト教徒が、共通して維持している教会法の根拠を指し示すことに役立っている。

2022 年 10 月にカーディフ大学ロースクールで開催された教会法 LLM（法学修士）30 周年記念会議では、RT Revd クリストファー・ヒル（ARCIC）や Ven アラン・ペリー（カナダ・アングリカン・チャーチ・ジェネラル・セクレタリー）の論文を含め、パネルで原則について議論が行われた。同じ会議で、エキュメニストの Dr ポール・グッドリフが率いるパネルは、2022 年 8 月にカールスルーエで開催された世界教会協議会の第 11 回総会に提出された「キリスト教法の原則」プロジェクトに対する「原則」の影響を追跡した。LLM コース自体の授業では、原則は、より広いアングリカン・コミュニオンの教会法の授業の中心になっている。

広く報道されている「カトリック教会のための教憲案」は、2022 年 8 月にウィンガード・カトリック研究所が発表したもので、「・・・特に、公式の「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」を考慮に入れている」。

第 2 版の論文とレビューは、今後数ヶ月以内に Ecclesiastical Law Journal（教会法ジャーナル）（ラッセル・デューハースト）と Journal of Anglican Studies（アングリカン学ジャーナル）（ク

第 2 版は、2022 年 8 月の Lambeth Conference で、南アフリカ・アングリカン・チャーチのレソト主教 RT Revd ビセンチア・クガベが主催して発表された。出席した主教たちは、それぞれの主教区や管区への「原則」の適用に大きな関心を示した。とりわけカンタベリー大主教におかれましては、序文をいただいたことに感謝申し上げます。

リストファー・ヒル)に掲載される予定である。原則を補足するリソースのページは、教会法協会のウェブサイトで利用可能である。委員会の仕事は、2023年1月にローマ・カトリック教会における Synodality (シノダリティ)に関するシノッドの一貫としてローマの聖トマス・アクィナス大学のエキュメニカル研究所で開催された「Listening to the West (西に耳を傾ける)」会議でのラッセル・デューハーストのプレゼンテーションの基礎となった。

## まとめ

法律・宗教センター、教会法協会、およびアングリカン諮問評議会にとって、この第2版の作成を協力して行うことは非常に有益な経験となった。第2版の発行から5ヶ月の間にも、学术界やエキュメニカル界における関心と活動は、このプロジェクトが教会に大きな貢献をし続けていることを示すものである。

常任委員会が、コミュニオン全体を通じて「原則」の研究をより広く奨励するための呼びかけまたは決議(2008年になされた決議14.20に相当)を検討することを私たちは期待します。

よろしく願いいたします。

ラッセル・デューハースト、教会法の原則改定委員会委員長

ノーマン・ドウ、カーディフ大学カーディフ法律・宗教センター・ディレクター

エリザベス・ウィルソン、教会法協会会長